

我輩は「線」である。  
名前は、すでにある。「水平線」だ。  
日々美しい夕景を演出したり、初日の  
出の瞬間を輝かせたりする線としてお  
馴染みである。  
我輩が空と海の間にあるように、  
この世に「境界線」として存在する線も  
多い。ただし、物事を隔てるのが本業  
なのではない。我輩たち「線」は、隔たれ  
たあちら側とこちら側を「つなぐ」ため  
に存在しているのだ。  
例えば我輩なら、美しい夕景とともに  
今日と明日をつなぎ、初日の出の瞬間  
には、希望に満ちた輝きとともに旧年  
と新年をもつないでいるのである。  
今日も速くを、  
一隻の船が横切っていく。  
一人の乗組員がこちらを見ている。  
いや、こちらではなく、明日を見ている  
のかもしれない。

新年の  
ごあいさつ

本年もよろしくお願い申し上げます。



取締役社長 伊藤 雅彦

皆さん、明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、私の思うところを述べたいと思います。

昨年のわが国経済は、通商問題を巡る緊張の増大、中国経済の先行き等が懸念されながらも、全体としては緩やかな回復傾向で推移しました。一方で台風や記録的な風雨により河川の堤防決壊等による洪水や土砂崩れ等、各地に甚大な被害をもたらし、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

2019年度の上期実績は、情報通信事業部門において重要な市場であった中国を発信源とした光ファイバ及び光ケーブルの急激な価格下落の影響を大きく受けたこと、及び、スマートフォン向けFPCの需要の頭打ち、これに伴う価格競争激化の影響を受けたこと、この2つの主力事業の採算悪化により、大変厳しい結果となりました。

エネルギー事業は、次の中期に向けて、20年度内での構造改革の完遂を進め、国内外EPC事業の在り方を明確にします。

情報通信事業は、中国や新興国での光ファイバおよび光ケーブルの需要停滞と低価格は継続することを前提とした構造改革の議論を本格的にスタートします。北米の需要は引続き堅調であり、新規参入した欧州での需要も今後期待されます。この欧米マーケットでは当社の高付加価値商品であるSWR/WTCの拡販と、その周辺機器・部

品の拡販に努めます。

FPC事業では、モノづくりの原点に戻り、生産性の改善、歩留まり改善をIoT化・自動化を含め着実に実行します。自動車電装事業は、身の丈経営およびソリューション提案力による収益確保を継続します。

研究開発については、テクノロジー・プラットフォームをベースに“つなぐ”テクノロジーをより進化させる取り組みをしています。この取り組みを加速するために、国内外の外部機関との共創を効果的に進めることのできるグローバルな研究開発体制を強化します。既存の技術領域では、次世代の光ファイバや低コスト生産技術の研究開発を推進します。大きな進展が期待される第5世代移动通信システム(5G)領域では、ミリ波モジュールや石英基板を用いた低損失受動部品など、無線伝送の広帯域化に向けた研究開発を進めています。高温超伝導線も実用化に向けた開発を加速します。ファイバレーザは、高精度・高品質な加工を高速で行うことのできるシングルモード・ファイバレーザの研究開発を進めています。また、欧州R&Dセンタと連携し電動化が進む自動車の充電用部品、高速車載イーサネット、バッテリー配線システムなどの研究開発も推進しています。

皆さん、今年も、明るく、健康で逞しくがんばりましょう。

EXhibition  
展示会情報

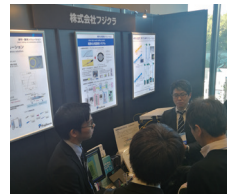
BICSI JAPAN District Conference & Exhibition 出展



ネットワーク技術者のための国際的な教育機関であるBICSI\*の日本支部が主催したBICSI JAPAN District Conference & Exhibitionが11/21(木)に開催されました。本イベントは、世界各国の講演者によるICTに関する幅広い内容の講義セミナーや、合計25社のスポンサー企業の製品展示会です。そして本年は、経験年数の浅い若手が選手として登録し配線施工技術の腕を幅広く競う競技会<ケーブリング・スキルズ・チャレンジ(CSC)>が同時開催されました。当社展示ブースにおいてはデータセンタ関連製品を展示しました。昨年に比べて来場者も増えて非常に活況であり、データセンタ関連製品を多くの方に紹介する機会を得ました。BICSIの活動は、ネットワーク設計・施工技術者の技術向上を目的とするもので、当社は旧来よりこの活動に賛同・

支援をしています。よりよい品質の製品を提供しながら適切なネットワーク配線設計で、施工教育に貢献し、一層高度化するICT社会を支えていきます。

\*BICSI(The Building Industry Consulting Service International: ビクシ)は、米国において、1974年に設立された情報配線システムの設計・施工に関する非営利の教育機関です。ICT(Information and Communication Technology)業界における最先端の技術動向に関する情報提供、公認のセミナー・認定資格試験の実施などを通じ、ICT業界において、必須となる高度の知識を持った技術者を養成し、業界の発展に寄与することを目的としており、約100カ国に24,000名以上の会員が参加しています。



● 当社ブースの様子



● ケーブルスキルチャレンジの様子

光ケーブルシステム事業部

telcon@jp.fujikura.com

R&D  
研究開発

熱中症対策 × ICT～暑さ指数の見える化～  
NTT西日本殿HPで動画紹介

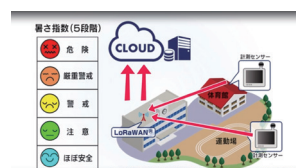


2019年7～9月に、児童・生徒を守るLoRaWAN™を活用した「熱中症対策」トライアルを吹田市、NTT西日本、NTTフィールドテクノ、フジクラが協力して実施いたしました。現在、NTT西日本殿のHPにおいてその取り組みの内容が動画で紹介されています。トライアルの概要としては、吹田市立南千里中学校の運動場と体育館の2箇所に弊社センサノードを設置し、温度・湿度・放射熱等を計測、その計測データはLoRaWAN™を通じてクラウド上に蓄積され、職員室内のPC・タブレット等から暑さ指数等を確認(見える化)できるとともに、運動場と体育館に設置したパトランプやメールにより教職員・生徒等に対してタイムリーに注意喚起し、暑さ指数に応じ

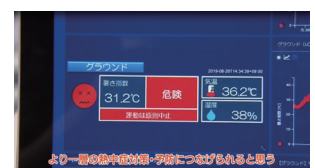
た速やかな対処を促すことを実施いたしました。現場の方からは、「より一層の熱中症対策・予防につながられると思う」とのコメントを頂けております。今回のトライアルで得た知見を、幅広い分野に活かし、ICTを活用して誰もが安全で健やかに暮らせるまちづくりに貢献・協力していきます。



● ソリューション事例(NTT西日本HPより)



● 熱中症対策のシステム概要



● 暑さ指数クラウドアプリ

電子応用技術R&Dセンター

ask-dsc@jp.fujikura.com

(株)フジクラ・ダイヤケーブルでは、IoTによる高圧ケーブル診断サービスの提供を開始しています。

高圧ケーブルは、工場内の設備に電気を供給するために多数使われており、工場を安定操業する上で非常に重要な役割を果たしています。

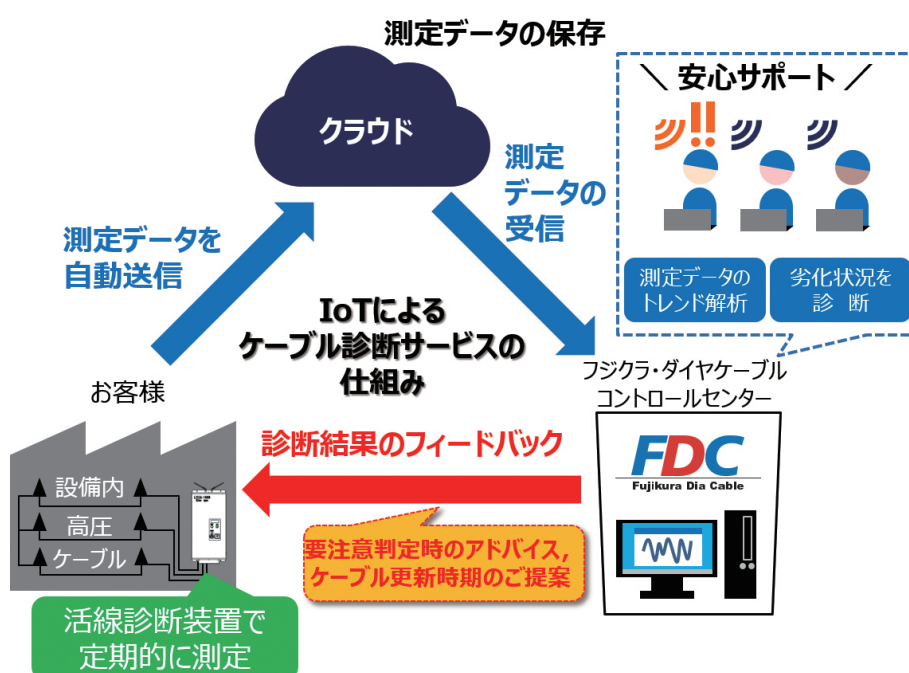
高度経済成長期から約60年、工場、プラント、インフラ系設備の老朽化が進行しており、これらの施設内に存在する高圧ケーブルも劣化が進んでいます。高圧ケーブルの劣化が進展すれば、いずれ絶縁破壊が起こり、設備が停電して稼働がストップするだけでなく、ケーブルが焼損し火災などの重大災害に繋がる可能性があります。これらを未然に防止するためには、定期的にケーブルの状態を活線下でトレンド監視することが有効です。

当社の診断サービスは、高圧ケーブルに取り付けた活線診断装置(LISSA-1000)により、ケーブルのシース絶縁抵抗と遮へい用銅テープ(以下、シールドと記載)の抵抗を測定します。活線診断装置は、各相のシールドに商用電

圧接地用コンデンサを接続し、直流電圧を印加して活線下でも安全に測定を実施します。そして、得られたデータはインターネット回線を通じてクラウドサーバーにアップロードされます。

測定からデータアップロードまで一連の動作は、設定した周期で自動的に行われます。データは、グラフ化され、高圧ケーブルのシース絶縁抵抗とシールド抵抗のトレンドグラフをいつでもどこでも確認可能です。更に、当社専門スタッフがクラウド上の測定データをトレンド分析し、お客様に月次レポートや診断アドバイスをお届けします。本サービスは、特別高圧受電だけでなく高圧受電の中小規模の工場や店舗などにも導入が可能であり、様々なお客様にご利用いただけます。

フジクラ・ダイヤケーブルは、これからもお客様の工場の安定操業に向け高圧ケーブルの保全業務をサポートしていきます。



お知らせ

## RE100加盟で環境長期ビジョン2050達成を加速

フジクラグループは、2016年にIPCC（気候変動に関する政府間パネル）RCP2.6（2℃シナリオ）によるシナリオ分析を行い、フジクラグループ環境長期ビジョン2050を制定しました。2050年の未来を見据え、環境負荷の最少化に向けた下図のチャレンジに取り組んでいます。

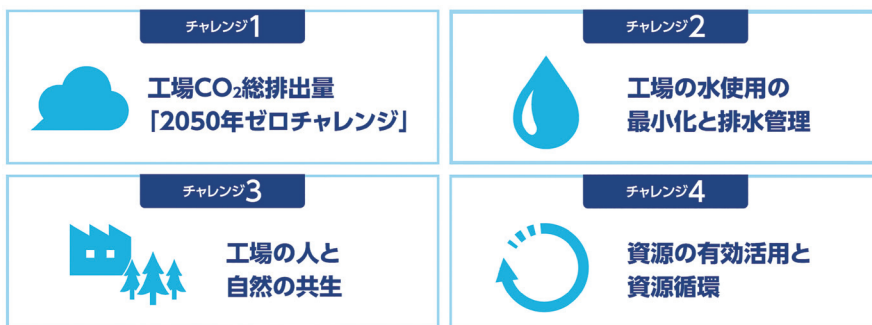
環境長期ビジョンのなかでも、最も困難なのが「チャレンジ1：工場からのCO<sub>2</sub>排出量ゼロチャレンジ」と考えています。私たちの姿勢を示す意味で、東京都江東区の本社ビルの電気を、水力発電所由来の再生可能エネルギーに切り替えを行いました。また福井県にあるグループ会社の工場も再生可能エネルギーに切り替えました。今後は、海外の工場も含め、経済合理性を見極めながら、徹底した省エネルギー対策のもと、再生可能エネルギーの導入を進めていきたいと考えています。

当社は、環境長期ビジョンの達成を加速させるために、2019年10月に、国際NGOであるThe Climate GroupがCDPとのパートナーシップにより主導する、RE100\*に加盟しました。RE100は事業活動で使用する電力を再生可能エネルギー100%に変換することを目的としたイニシアチブであり、世界中で212社（2019年11月30日現在）が加盟しています。今回のRE100加盟を機に、再生可能エネルギーの導入を進めることで環境長期ビジョンの達成を加速し、国連持続可能な開発目標（SDGs）の課題である気候変動リスクの緩和にも貢献していきます。

\*RE100：国際環境NGOのThe Climate Group（TCG）が2014年に開始したイニシアチブであり、Renewable Energy 100%の頭文字をとってRE100と命名されています。



## ● フジクラグループ環境長期ビジョン2050における4つのチャレンジ



CSR推進室

[fjk.csr@jp.fujikura.com](mailto:fjk.csr@jp.fujikura.com)

**Fujikura** 株式会社フジクラ Fujikura Ltd.

“つなぐ”テクノロジー 製品ニュース No.462  
発行：2020年1月 編集兼発行責任者：森本 朋治  
〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1  
<http://www.fujikura.co.jp>

営業企画部 TEL:03-5606-1092  
関西支店 TEL:06-6364-0373  
中部支店 TEL:052-212-1880  
東北ブロック TEL:022-266-3344  
九州ブロック TEL:092-291-6126

